

# 平成23年度 社会教育委員の会 提言書

## 「地域、家庭が連携した子どもたちの育成について」

### 1 地域における子どもの活動

市や各地区では、子どもたちの健全な育成と福祉の増進を図るため、球技大会の開催や、子どもたちが進んで活動していけるようジュニアリーダーの育成に努めています。また、そのジュニアリーダーは地域のお兄さん・お姉さんとして、子どもたちをまとめ、わくわくフェスタへの出店や各地区の公民館まつりへの協力など、地域の行事へ貢献しています。

そのような中、現状は、核家族世帯が多く、少子化により同年代の子どもたちのつながりも少なくなっています。また、習い事やスポーツ少年団・クラブ活動と忙しく、地域の活動への参加の減少も課題です。例えば、親睦球技大会は、スポーツの苦手な子どもは参加しづらく、スポーツ少年団などに加入している子どもはその活動を優先し、結果、参加者数が減少しているのが実態ではないでしょうか。

### 2 地域の役割

地域の異年齢での集団で活動する機会を持ったり、地域の大人と接したりすることは、子どもの社会性を育てることにつながるとともに、自主的に活動に関わり責任感を育てることにもつながります。さらに、子どもたちに地域への関心や愛着をはぐくむために、私たちは、地域ぐるみで子どもたちが安心して参加できる、誰でも手軽にできる活動の展開を求めます。そのためには、地域・学校・家庭それぞれの立場から、全ての大人が連携していくことが必要です。

そこで、市で推進している創甲斐教育の一環として取り込まれるラジオ体操に着目しました。

かつて夏休み中に行っていたラジオ体操は、地域によっては1週間程度で終わってしまいます。ラジオ体操は、特別な道具や技術は使わず手軽にでき、子どもからお年寄りまで参加できることから、市民全員が健康でいられるよう、また、世代を超えたつながりや、地域のふれあいを持てる良い機会であると考えます。

そのラジオ体操を、「地域づくり」の一つと考え、多くの人に参加することでコミュニケーションが図られ、地域の中で活かせる自分の役割や可能性に気づくことができるのではないのでしょうか。特に子どもたちに対しては、人と人の絆、人と地域の関わりの大切さを学ばせたいと考えます。

これらのことを目指すため、地域の役員やジュニアリーダーが中心となり、ラジオ体操を通してふれあいを深め、地域づくりへの推進を行いましょよう。

### 3 家庭（親）への支援

前述のように、子どもたちの活動は、地域が協力して行うことが望まれます。

しかし、子どもたちが安心して活動に参加できない要因の一つとして、家庭内の問題もあるのではないのでしょうか。

昨今のニュースでもよく話題となる「児童虐待」についても深刻に考えなければなりません。核家族化、近所つきあいの希薄化などから一人で問題をかかえる親も少なくはありません。

平成 12 年に施行された「児童虐待の防止等に関する法律」（「児童虐待防止法」）では、「児童虐待に係る通告」が義務付けられています。地域にもその通告義務は当てはまります。

では、地域や家庭で「児童虐待」への認識がどれくらいあるのでしょうか。この問題には、関係機関と連携を図り、「児童虐待」とは何か改めて学習する機会が必要であると考えます。「児童虐待」への認識を深め、孤独に悩む親に光を与えることが地域の役割です。

## 提 言

- 1 子どもたちへの活動支援
  - ・地域の役員と指導者の連携
  - ・創甲斐教育の一環としての「ラジオ体操」の推進
- 2 虐待防止と子育て支援
  - ・学習機会の提供、地域への啓蒙
  - ・連絡・相談窓口等の環境づくり

平成 23 年 12 月 20 日

甲斐市教育委員会 教育長 河野 文彦 殿

甲斐市社会教育委員の会  
委員長 長田 一三